

『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂 編著(研究社印刷)

2012 年度～

科目概要

英語という言葉をも、音、語、文法、意味、コミュニケーションという側面から考察し、言語を分析する際の基本的な概念と基礎知識を学ぶ。具体的には音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、英語史を学ぶことを通じて、英語のしくみと特徴を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

音、語、文法、意味、コミュニケーションという側面から、言語を分析することができるようになる。日本語と英語を対照することによって、日本語を母語とする学習者に英語を教授する側に必要な視点が持てるようになる。

■ 科目の学習要点事項

音声学1:「英語の発音とスペリング」第3章

英語の発音記号がそれぞれどの音声を表しているかを学ぶ。英語のスペリングが複雑な理由を理解する。

音声学2:「発声器官、言語音を分類する」第8章

英語のそれぞれの音声を発音するときどの部分の発声器官を用いるのかを理解する。

音韻論1:「音素とは何か、音声の変化、音節とは何か」第8章、第9章

「音素」、「異音」、「音節」の概念を理解する。

音韻論2:「アクセント、ストレス、リズム、音素の体系」第9章

英語の音素の体系を理解する。英語と日本語のアクセントやリズムの違いを理解する。

形態論1:「英語の語彙とその豊富さ」第4章、第5章

英語の語彙が豊富な理由を理解する。

形態論2:「形態論と形態素、語形成、語の派生」第10章

「語基」の概念を理解する。英語の語を形態素分析できるようになる。品詞を変化させる形態素の主なものを知る。

統語論1:「文ができるしくみ、文法研究の歴史」第11章

英語の五文型を理解する。名詞句、動詞句といったまとまりがあることを理解する。文法理論の主なものを知る。

統語論2:「統語構造、英語の句構造の一般的特徴、単文と複文」第12章

英語の文の頭語構造が分析できるようになる。単文と複文の違いを理解する。

意味論1:「ことばの意味とは何か、意味論の研究対象としての意味」第13章

意味論の基礎を理解する。「意味とは何か」について考える。

意味論2:「語の間の意味関係、意味の拡張(メタファー、メトニミー)」第14章、第15章

メタファーとメトニミーの仕組みについて理解する。

語用論1:「ことばの意味とコンテキスト、ことばの意味に見られる主観性」第16章、第17章

主観的な日本語の考え方と、客観的な英語の考え方を比べて、違いを理解する。

語用論2:「まとまりのある文章と結束性、情報構造」第18章、第19章

「旧情報」「新情報」と、それらの文中での順序について理解する。

英語史1:「ことばの起源と語族、人間のことばと言語研究」第1章、第2章

人間が言葉を得た理由と過程について考える。英語がどの語族に属するかを理解する。

英語史2:「英語の語彙の歴史的発展、標準英語の成立、英語のヴァリエーション」第5章、第6章、第22章、第23章
英語の変化の歴史を理解する。標準英語がどのようにしてイギリスとアメリカで成立したかを理解する。さまざまな地域における英語について学ぶ。

参考文献

『英文法解説』江川泰一郎著(金子書房、改訂三版版、1991年発行)

『英語学概論』西光義弘編(くろしお出版、増補版、1999年発行)

『音声学・音韻論』窪園晴夫著(くろしお出版、1989年発行)

『生成文法の基礎:原理とパラ미터のアプローチ』、中村捷・金子義明・菊池朗著(研究社、1989年発行)

『認知意味論の新展開:メタファーとメニミー』谷ロー美著(研究社、2003年発行)

『日英語対照による英語学概論』増補版 西光義弘ほか著(くろしお出版)

『英語学入門』安藤貞雄ほか著(開拓社)

『英語の論理・日本語の論理』安藤貞雄著(大修館書店)

評価基準

■レポート評価

テキストの内容、特に注意点で示した箇所を参照し、理解しているかを見る。

テキストで用いられている用語を正しく理解し用いられているかを見る。

「例を挙げよ」との指示がある場合は、自ら探した例が引用されているかを見る。

■科目終了試験評価

英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の各分野の知識が定着しているかどうかを見る。

用語を正しく用い、概念を正しく理解した上で論理的に記述しているかどうかを見る。

テキストの内容と章末の課題からの出題もあるので、十分にテキストを読み理解してほしい。テキストに出てきた用語(特に太字のもの)については特に注意して理解し覚えてほしい。

テキストのうち、特に重要なのは以下の章である。これらの章以外もよく読み、参考文献に挙げた書籍も参考にし理解に励んでほしい。

第1章、第3章、第4章、第5章、第6章、第8章、第9章、第10章、第11章、第12章、第13章、第14章、第15章、第16章、第22章、第23章

科目概要

科目としての英文法が指導要領から除かれているが、指導要領には「英語の言語構造に含まれている」文化的要素の理解を深めることが規定されている。従って、教師には、正確な文法体系が身につけていることが求められる。本講義では、いわゆる「学校文法」の体系を学ぶことができる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

テキストの学習を通じて、文法的に正しい文と文法的に正しくない、あるいは、不自然な文との違いがどうして生じるのかを理解しておくようにする。そして、文法に関する理解が、単なる知識ではなく、英文を正しく理解し、正しい英文を作るために活用できるようにする。学習の際に、以下の点に特に注意する。

- 1 単にある文が文法的に正しいか、正しくないかが理解できるだけでなく、なぜ、そうなのかという理由を理解するようにする。
- 2 各文法項目を個別のものと考えずに、互いに関連しあつて、英文法という1つの体系を成していることを理解するようにする。特に、複数の文法上の働きを持つ単語に注意する。
- 3 単語の持つ形の上での特徴を理解する。例えば、名詞であれば複数形がある。動詞であれば、3人称単数形の-sがついたり、過去形・過去分詞形の-edがついたりする。このような単語の持つ形の上での特徴からその単語がどのような文法上の働きを持っているかを理解するようにする。
- 4 単語と単語のつながりにも注目する。例えば、助動詞の後は、必ず動詞の原形が来るし、be動詞の後に動詞が続く時には、必ず現在分詞か過去分詞である。また、不定冠詞や定冠詞の後には、必ず、名詞が来る。このように単語の並びには、一定の決まりがある。テキストの学習を通じて、英語の単語の並びの特徴を理解するようにする。

■ 科目の学習要点事項

- 1 文法用語に関してそれらを暗記する必要はないが、それぞれ異なる名前が付けられているのは、異なる特徴や機能を持っているからであるので、異なるものとして理解する。例えば、単語を分類するのに品詞に分ける方法がある。名詞、動詞、形容詞、副詞などである。これらは、同じ性質を持ったものをグループに分ける分類方法であるので、名詞なら名詞に属する単語がどのような共通した性質を持つのかを理解すること。
- 2 単語は分類する観点に応じて異なる分類がされるので、それを混同しないこと。例えば、文の中でどのような意味的な働きをするかに応じて、主語、述語、目的語、補語などに分類される。一方、品詞に分ける分類方法もある。例えば、'The man has a book in his hand.'において、'man'は文の中で働きという観点からは主語であるが、品詞の分類では名詞である。このように同じ単語でも分類の観点が異なれば異なるものとして説明されるので注意すること。
- 3 同じ単語でも異なる特徴や機能を持っている場合には、異なる品詞に分類される。例えば、that は指示詞としては、「あれ」という意味があり名詞の前に付く。例' that book'、接続詞としては文と文をつなげる働きがある。例'I know that he is a doctor.'このような紛らわしい語に注意して理解すること。

4 英文法を苦手とする 1 つの原因として、英語と日本語は違っているという先入観が、日本人の英語学習者に苦手意識を助長している。確かに、英語と日本語ではことばの仕組みが異なるので、違っているのは当然である。しかし、人間が使うことばは基本的に同じ機能を持っている。英語と日本語が持つ共通した機能を見つけ出すように努力して英文法を学ぶと苦手意識を軽減することができることを意識して学習すること。

参考文献

『英文法の疑問-恥ずかしくてずっと聞けなかったこと』大津由紀雄著(NHK出版、2004)

『英文法総覧』安井稔著(開拓社、1996)

『オックスフォード実例現代英語用法事典(第3版)』マイケル・スワン著・吉田正治訳(研究社、2007)

評価基準

■レポート評価

将来、英語の教師になるためには、各文法項目について正確な知識が必要である。レポートでは、テキストの学習を通して正確な知識を身につけているかが、問われる。問題はすべてテキストの中から出題されているので、テキストを十分に学習すれば、合格点を必ず取れるはずである。従って、練習問題も含めてテキストを十分に学習してからレポートに取り組むことが求められる。

■科目終了試験評価

将来、英語の教師になるためには各文法項目の要点を正確に理解し、正しい英文が書けたり、英文を正しく理解できなければならない。教科書の練習問題 1-26 和文英訳と英文和訳の問題から出題するので、しっかり準備して試験に臨むように。

使用テキスト

配本年度

『シリーズ・初めて学ぶ文学史② はじめて学ぶアメリカ文学史』

板橋好枝・高田賢一編著(ミネルヴァ書房)

2011年度～

科目概要

この科目では、植民地時代から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを、歴史、社会、文化的な背景を踏まえながら概観します。同時に、それぞれの時期に関して、代表的作家の作品の一部を実際に読み、個々の作家、作品に対する理解や文学史上の位置づけを把握し、英語圏文化における教養としてのアメリカ文学史の知識の習得を目指します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. アメリカ文学史の大きな流れを把握し、重要概念や作家、作品に関する基礎知識を得る。
2. 作品成立の背景となった時代思潮や歴史等を理解し、アメリカ文学や社会の多面性を学ぶ。
3. 代表的な作品の抜粋を読み、文学的な英語表現に慣れると共に、文学由来の名言や名場面を知る。
4. 現在のアメリカ社会に通じる様々な政治、社会問題と文学との関係を理解する。

■ 科目の学習要点事項

※()内の用語はキーワードです。

1. 植民地時代の文学:17・18世紀(アメリカの夢、ピューリタニズム、セイレムの魔女狩り)
2. アメリカ文学の独立期:19世紀初期(独立宣言と合衆国憲法、明白な天命、フロンティア)
3. アメリカ文学の開花:19世紀中期(南北戦争、アメリカ・ルネッサンス、超絶主義、ロマン主義)
4. リアリズムと自然主義の文学:19世紀後期－20世紀初頭(金ぴか時代、マックレイカー、地方色の文学、シカゴ・ルネッサンス)
5. アメリカ文学の成熟:1920年代－30年代(ジャズ・エイジ、大恐慌、失われた世代、イマジズム、モダニズム、ハーレム・ルネッサンス、南部ルネッサンス)
6. 第二次世界大戦後の文学:1940年代－50年代(戦争小説、マッカーシズム、公民権運動、黒人文学、ビート・ジェネレーション、ユダヤ系の文学)
7. アメリカ文学の現在:1960年代－現在(ベトナム戦争、カウンター・カルチャー、エスニックの文学、ポスト・モダニズム、ミニマリズム)

(※アメリカ文学の伝統:ゴシックロマンスとノヴェル、ほら話、ピカレスク小説の伝統)

参考文献

テキストでは不足している現代のアメリカ文学及び研究に関する情報が入った資料と、テキストとは異なる観点から書かれた文学史の資料を以下に紹介します。

『アメリカ文学入門』諏訪部浩一、他編著(三修社)

※第一線で活躍する研究者 15 人による、日本語で書かれたアメリカ文学史の最新版です。テキストとほぼ同様の構成で、時代背景と文学史のアウトラインを踏まえて、代表作家、詩人、劇作家 100 人を最新の研究成果を踏まえて紹介しています。第二部では、アメリカ文学における重要テーマを 15 個取り上げ、時代を横断する形での解説

が行われています。参考文献リスト等の付録も充実しています。

『アメリカ文学案内』 寺門泰彦、他編著(朝日出版社)

※アメリカ文学史で扱われる作家と作品を網羅的に取り上げた事典です。重要作家の解説のみならず重要作品のあらすじや評価等も紹介されているのが特徴です。

『アメリカ文学のレッスン』 柴田元幸著(講談社現代新書)

『アメリカ文学史のキーワード』 巽孝之著(講談社現代新書)

『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』 巽孝之(慶應義塾大学出版会)

※テーマやキーワード等を基準にまとめられた文学史です。特に新書の二冊はととも読みやすく、それでいてアメリカ文学の重要なポイントをしっかりと学ぶことができます。

その他、テキスト内で紹介されている作品の多くは、日本語の翻訳版が文庫等で簡単に手に入ります。また、原文に関しても、古典作品の多くは既に著作権が切れていますので、電子データがインターネット等で簡単にしかも無料で入手ができます。こうしたものを活用して、興味を持った作品を具体的に読むのが、何よりもアメリカ文学への理解を深めることに繋がると思います。

評価基準

■レポート評価

1 単位目: 事実関係や概念が、テキストの記述に沿う形でしっかりと把握されていることが最低限必要です。作品(抜粋)への言及とキーワードとの関連性も評価基準に含まれます。

2 単位目: テキストの関連箇所を読んで理解したことが、整理された形で、自分の言葉で表現されているかどうかを評価します。

※テキストや参考文献(インターネット上の資料も含む)の文章を写しているレポートは評価しません。テキスト以外の資料(インターネット上の資料も含む)を参照した場合、出典を明記してください。資料からの引用については「」で箇所も明らかにしておくこと。

※作品名や作家名は原綴り(英語)で記載すること。これは科目終了試験でも原綴りを原則とすることから必要であり、日本語表記のみである場合、再提出となります。

※作品タイトルやセリフの引用の仕方(英タイトルは印刷ならイタリックに、手書きならアンダーラインを引き、日タイトルには『』二重カッコをつける。英セリフには“ ”を、日セリフには「 」一重カッコをつける)や、英単語の改行は音節の切れ目で行うこと等にも注意して、レポートを作成してください。

■科目終了試験評価

レポート課題を通して学んだ内容を中心に、各時代の時代風潮や歴史的背景、代表作家の生涯や作品などが把握できているかどうかを評価します。テキストをよく読み、時代ごとに内容をまとめておくことに加えて、作家や作品に関しても、レポート課題で取り組んだ項目以外のものも、「科目の学習要点事項」欄にあるキーワードとの関連性を踏まえて、要点をまとめておくといいでしょう。こちらも作品名や作家名は原綴り(英語)で記載することを原則とします。

使用テキスト

配本年度

『シリーズ・初めて学ぶ文学史② はじめて学ぶアメリカ文学史』

板橋好枝・高田賢一編著(ミネルヴァ書房)

2019年度～

科目概要

この科目では、植民地時代から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを、歴史、社会、文化的な背景を踏まえながら概観します。同時に、それぞれの時期に関して、代表的作家の作品の一部を実際に読み、個々の作家、作品に対する理解や文学史上の位置づけを把握し、英語圏文化における教養としてのアメリカ文学史の知識の習得を目指します。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. アメリカ文学史の大きな流れを把握し、重要概念や作家、作品に関する基礎知識を得る。
2. 作品成立の背景となった時代思潮や歴史等を理解し、アメリカ文学や社会の多面性を学ぶ。
3. 代表的な作品の抜粋を読み、文学的な英語表現に慣れると共に、文学由来の名言や名場面を知る。
4. 現在のアメリカ社会に通じる様々な政治、社会問題と文学との関係を理解する。

■ 科目の学習要点事項

※()内の用語はキーワードです。

1. 植民地時代の文学:17・18世紀(アメリカの夢、ピューリタニズム、セイレムの魔女狩り)
2. アメリカ文学の独立期:19世紀初期(独立宣言と合衆国憲法、明白な天命、フロンティア)
3. アメリカ文学の開花:19世紀中期(南北戦争、アメリカ・ルネッサンス、超絶主義、ロマン主義)
4. リアリズムと自然主義の文学:19世紀後期－20世紀初頭(金ぴか時代、マックレイカー、地方色の文学、シカゴ・ルネッサンス)
5. アメリカ文学の成熟:1920年代－30年代(ジャズ・エイジ、大恐慌、失われた世代、イマジズム、モダニズム、ハーレム・ルネッサンス、南部ルネッサンス)
6. 第二次世界大戦後の文学:1940年代－50年代(戦争小説、マッカーシズム、公民権運動、黒人文学、ビート・ジェネレーション、ユダヤ系の文学)
7. アメリカ文学の現在:1960年代－現在(ベトナム戦争、カウンター・カルチャー、エスニックの文学、ポスト・モダニズム、ミニマリズム)

(※アメリカ文学の伝統:ゴシックロマンスとノヴェル、ほら話、ピカレスク小説の伝統)

参考文献

テキストでは不足している現代のアメリカ文学及び研究に関する情報が入った資料と、テキストとは異なる観点から書かれた文学史の資料を以下に紹介します。

『アメリカ文学入門』諏訪部浩一、他編著(三修社)

※第一線で活躍する研究者 15 人による、日本語で書かれたアメリカ文学史の最新版です。テキストとほぼ同様の構成で、時代背景と文学史のアウトラインを踏まえて、代表作家、詩人、劇作家 100 人を最新の研究成果を踏まえて紹介しています。第二部では、アメリカ文学における重要テーマを 15 個取り上げ、時代を横断する形での解説

が行われています。参考文献リスト等の付録も充実しています。

『アメリカ文学案内』 寺門泰彦、他編著(朝日出版社)

※アメリカ文学史で扱われる作家と作品を網羅的に取り上げた事典です。重要作家の解説のみならず重要作品のあらすじや評価等も紹介されているのが特徴です。

『アメリカ文学のレッスン』 柴田元幸著(講談社現代新書)

『アメリカ文学史のキーワード』 巽孝之著(講談社現代新書)

『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』 巽孝之(慶應義塾大学出版会)

※テーマやキーワード等を基準にまとめられた文学史です。特に新書の二冊はととも読みやすく、それでいてアメリカ文学の重要なポイントをしっかりと学ぶことができます。

その他、テキスト内で紹介されている作品の多くは、日本語の翻訳版が文庫等で簡単に手に入ります。また、原文に関しても、古典作品の多くは既に著作権が切れていますので、電子データがインターネット等で簡単にしかも無料で入手ができます。こうしたものを活用して、興味を持った作品を具体的に読むのが、何よりもアメリカ文学への理解を深めることに繋がると思います。

評価基準

■レポート評価

1 単位目: 事実関係や概念が、テキストの記述に沿う形でしっかりと把握されていることが最低限必要です。作品(抜粋)への言及とキーワードとの関連性も評価基準に含まれます。

2 単位目: テキストの関連箇所を読んで理解したことが、整理された形で、自分の言葉で表現されているかどうかを評価します。

※テキストや参考文献(インターネット上の資料も含む)の文章を写しているレポートは評価しません。テキスト以外の資料(インターネット上の資料も含む)を参照した場合、出典を明記してください。資料からの引用については「」で箇所も明らかにしておくこと。

※作品名や作家名は原綴り(英語)で記載すること。これは科目終了試験でも原綴りを原則とすることから必要であり、日本語表記のみである場合、再提出となります。

※作品タイトルやセリフの引用の仕方(英タイトルは印刷ならイタリックに、手書きならアンダーラインを引き、日タイトルには『』二重カッコをつける。英セリフには“ ”を、日セリフには「 」一重カッコをつける)や、英単語の改行は音節の切れ目で行うこと等にも注意して、レポートを作成してください。

■科目終了試験評価

レポート課題を通して学んだ内容を中心に、各時代の時代風潮や歴史的背景、代表作家の生涯や作品などが把握できているかどうかを評価します。テキストをよく読み、時代ごとに内容をまとめておくことに加えて、作家や作品に関しても、レポート課題で取り組んだ項目以外のものも、「科目の学習要点事項」欄にあるキーワードとの関連性を踏まえて、要点をまとめておくといいでしょう。こちらも作品名や作家名は原綴り(英語)で記載することを原則とします。

『英文学読本』 荒牧鉄雄・岡地嶺著(開文社)

2011年度～

科目概要

文学は、洋の東西を問わず、豊かな人間性を育む。この科目では、英文学の代表的な作品(の抜粋)を英語で読み、その文化的背景や時代思潮に注意をはらいつつ、イギリス人ひいては人間一般のものの考え方・感じ方を知り、且つ養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 文学作品を通じ、文学でしか表現し得ない言語の微妙な使用法の実例に触れる。
2. ことばの奥深さや、人間精神の感情の奥深さを実感する。
3. 言語や文化に対する感受性を高める。

■ 科目の学習要点事項

1. アングロ・サクソン期の文学
2. 中世の文学
3. ルネサンス期の文学
4. 市民革命期～王政復古期の文学
5. 18世紀の文学
6. ロマン主義時代の文学
7. ヴィクトリア朝の文学
8. 世紀末から第一次世界大戦期の文学
9. 20世紀の文学

参考文献

『イギリス文学史入門』川崎寿彦著(研究社)

『イギリス文学辞典』上田和夫編(研究社)

評価基準

■ レポート評価

- 1単位目 社会の動きと文学(代表的な作家・作品)の関係が把握されていることが重要。
- 2単位目 「解説」に記した3点を必ず入れること。特に第2項は、原文をしっかりと読み込んだうえで述べること。「評価」は、独断を避け、人を説得できるような表現を目指すこと。

■ 科目終了試験評価

各時代(=章)の代表的な作家の氏名と代表作、およびその特徴や時代の文学思潮が、的確に記されているかを評価する。また固有名詞は原綴りで記されていることが重要。

使用テキスト

配本年度

『英文学読本』 荒牧鉄雄・岡地嶺著(開文社)

2019年度～

科目概要

文学は、洋の東西を問わず、豊かな人間性を育む。この科目では、英文学の代表的な作品(の抜粋)を英語で読み、その文化的背景や時代思潮に注意をはらいつつ、イギリス人ひいては人間一般のものの考え方・感じ方を知り、且つ養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 文学作品を通じ、文学でしか表現し得ない言語の微妙な使用法の実例に触れる。
2. ことばの奥深さや、人間精神の感情の奥深さを実感する。
3. 言語や文化に対する感受性を高める。

■ 科目の学習要点事項

1. アングロ・サクソン期の文学
2. 中世の文学
3. ルネサンス期の文学
4. 市民革命期～王政復古期の文学
5. 18世紀の文学
6. ロマン主義時代の文学
7. ヴィクトリア朝の文学
8. 世紀末から第一次世界大戦期の文学
9. 20世紀の文学

参考文献

『イギリス文学史入門』川崎寿彦著(研究社)

『イギリス文学辞典』上田和夫編(研究社)

評価基準

■ レポート評価

- 1単位目 社会の動きと文学(代表的な作家・作品)の関係が把握されていることが重要。
- 2単位目 「解説」に記した3点を必ず入れること。特に第2項は、原文をしっかりと読み込んだうえで述べること。「評価」は、独断を避け、人を説得できるような表現を目指すこと。

■ 科目終了試験評価

各時代(=章)の代表的な作家の氏名と代表作、およびその特徴や時代の文学思潮が、的確に記されているかを評価する。また固有名詞は原綴りで記されていることが重要。

Thomas Bulfinch, *The Golden Age of Myth & Legend*

(London: George G. Harrap & c., 1915)

2014 年度～

科目概要

1. 英米文学の源流としての西洋古典文学に慣れ親しむ——近代の英米文学はもとより、広く西欧の文学や藝術全般に多大な影響を及ぼした西洋古典文学（ホメロス『イーリアス』、『オデュッセイア』、ウェルギリウス『アエネーイス』）の名場面を格調高い現代英語訳(Thomas Bulfinch, *The Golden Age of Myth & Legend* (1915))で読む。
2. 文学の奥深さを知る——人間の行為・思想・感情の崇高さや美しさと同時に、その愚かさや醜さに、的確な言語表現が与えられていることを鑑賞することで、普遍的な言語藝術の奥深さ、さらには人間の心の深さ・広さ・不可解さを知る。
3. そのあらすじを英語で書くことで、英語の表現力を養成する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 文学作品を通じ、文学でしか表現し得ない言語の微妙な使用法の実例に触れ、人間の精神や感情の奥深さを実感する。
2. 全き「コミュニケーション」を成立させるためには、情報の伝達のみならず、情動の伝達も必要不可欠であることに気づき、人間の複雑で精巧な内面を理解し表現するのに、文学作品の読解がいかに役に立つかを体得する。
3. 英文のあらすじを作るに際し、日本語で考えて和英辞典を使いながら英訳するのではなく、既存の英文の構造を利用し、その要点を圧縮して作文していく方法を習得する。

■ 科目の学習要点事項

1. トロイ戦争の発端(不和のリンゴ、パリスの審判を含む)
2. ヘクトールとパトロクロスの決戦
3. トロイの木馬(ラオコオン挿話を含む)
4. アガメムノンとオレステス、エレクトラ
5. ユリシーズとポリュフェーモス
6. ユリシーズを待ち受ける誘惑と危険(キルケ、スキュラとカリブデイス、カリプソ挿話を含む)
7. ユリシーズとパイアーケス人
8. イタケーに帰還したユリシーズ
9. トロイの陥落とアエネアースの放浪
10. カルタゴの女王デイドーとアエネアース
11. 冥界でのアエネアース
12. アエネアース最後の戦い

参考文献

ブルフィンチ作、野上弥生子訳『ギリシア・ローマ神話』（岩波文庫）

評価基準

■レポート評価

- ・正しい英文になっていること。
- ・要点が過不足なく書かれていること。
- ・レポート添削では、文法構造に誤りがある箇所を指摘することとどめ、敢えてその誤りを訂正することはしません。原文に当たって自分で訂正してください。自分の英語力の範囲内で訂正することに意味があるのです。

■科目終了試験評価

レポート課題のエピソードに関して、空所補充問題が出ます。空所は、数語のものから、数行にわたるものまでさまざまです。原文と同じでなくても、意味と文法構造が正しければ正解とします。準備のためには、エピソードの筋を覚えて、易しい英語で書けるようにしておくことを奨めます。原文通りの文体であることは求めません。むしろ、自分自身で容易に発話できる程度の易しい単文の羅列で構いません。要点が過不足なく正しい英語で表現されていることが重要です。主要な固有名詞は、ヒントとして提示されています。

使用テキスト

配本年度

『英米史で鍛える英語リーディング』大島保彦著(研究社)

2019年度～

科目概要

英米史に関する英語で書かれた逸話を読んで、通時的な観点から英米文化の基本的な知識を得、それを英語で再現することを通じてその内容を体験的に検証する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。

■ 科目の学習要点事項

Stonehenge

The Doomsday Book

The Pilgrim Fathers

The Boston Tea Party

The Black Death and Fire of London

The Luddites

The Wall Street Crash of 1929

The Assassination of President John F. Kennedy

参考文献

『概説イギリス史』青山・今井編(有斐閣)

『新版 概説アメリカ史—ニューワールドの夢と現実』(有斐閣選書)

■レポート評価

英語であらすじを書く際、日本語で考えたものを英訳するのではなく、教科書本文の重要な箇所の下線を引き、それを正しい英文構造になるように結びつけて作文していくことを強く奨めます。教科書本文で使用されている phrase や sentence をそのまま使っていれば、それ自体は正しい英語のはずですが、その組み合わせ方を間違えると、つまり syntax や discourse を無視して組み合わせると、意味が通らなくなることがありますので、注意しましょう。「つなぎの語句」(=conjunctives; discourse markers)は自分で工夫する必要があるかもしれません。添削では、D, S という記号を使用します。D=discourse, S=syntax の意味です。例えば、論旨の流れが良くない場合や、分かりにくい場合は、「D×」や「D?」などと書きます。また「S×」という記号は、文法や語法が不適切な場合に使用します。

■科目終了試験評価

科目終了試験には、レポート課題の1単位目・2単位目の問1・2の全8 episodesの中から、本文中の数語～数行が空欄になった問題が出題されます。論旨の流れをつかみながら読んでいけば強く印象づけられる箇所ですので、準備のためには、丸暗記しようとせず、英語で論旨の流れをたひながら楽しく読んでいきましょう。解答のヒントがある場合は、【Suggested vocabulary】欄に、教科書通りの解答をした場合に使用される語句が、基本形(=例えば、動詞なら原形、名詞なら単数形)で示してあります。(但し、教科書の通りでなくても、意味と語法の観点から適切であれば相当に評価します。)また、本文の他の箇所の表現がヒントになることがよくありますので、試験場では、空欄の前後だけではなく、問題文全体を良く読むようにしましょう。

『英語教育 21 世紀叢書 日本の英語教育 200 年』伊村元道著(大修館書店)

2014 年度～

科目概要

日本の英語教育はどのような変遷をたどって行われてきたのか、江戸時代から現在に至るまでの時代背景を踏まえながら概観します。扱う内容は多岐にわたり、英文法、カナ発音、教授法、学習指導要領、教科書、英和・和英辞典、お雇い外国人と ALT、小学校英語などが含まれます。英語教師になる上で、ぜひとも知っておきたい知識を身に付けるための科目です。

RT:「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」

- ・レポート作成:課題に従って教科書の該当箇所をよく読み、必要に応じて参考文献を参照しながら執筆すること。レポート返却後は、担当教員のコメントをよく読み、与えられた課題について理解を深めること。
- ・試験:試験前には、あらかじめシラバスをよく読み、教科書の要点を理解した上で試験を受けること。試験後は、試験問題と自ら書いた解答を十分に振り返り、理解不足であった点を復習すること。

SR:「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」及び「予習・復習に必要な時間」

- ・スクーリング:スクーリングのシラバスに記載されている授業計画に従って教科書の該当箇所をあらかじめ読み、概要を理解してから授業に出席すること(予習、スクーリング1コマにつき1.5時間程度)。スクーリング後は、教科書の該当箇所及び授業で配布されたプリント等をよく読み、要点を改めて確認すること(復習、スクーリング1コマにつき1.5時間程度)。
- ・レポート作成:課題に従って教科書の該当箇所をよく読み、必要に応じて参考文献を参照しながら執筆すること(予習、1.5時間程度)。レポート返却後は、担当教員のコメントをよく読み、与えられた課題について理解を深めること(復習、1.5時間程度)。

学習上の目標

①「科目の到達目標」

- ・知識・理解:日本の英語教育の現状と課題、学習指導要領に掲げられている目標と内容の基礎的な点を理解すること。
- ・技能:中学校・高等学校の英語教育に必要な、基礎的英語力・知識・教育技法を身につけること。
- ・理解・技能:自らが英語を学習してきた過程をふり返り、指導法や実際に使われている教科書の研究を通して、指導の要点 や効果的な教育方法を見出せるようになること。

②「科目の学習要点事項」

現在の英語教育は、これまでの英語教育の歴史に立脚しています。

以下のような観点から、日本で英語教育を行う上での意義・問題点・限界などに関して考察を深めてください。

- ・江戸時代から現在まで、日本人はどのように英語を学び、教えてきたのか、その概要を理解すること。
- ・江戸時代から現在まで、日本における英語教育はどのような教授法を用いて行われてきたのか、その概要を把握すること。
- ・学習指導要領の中で、「外国語教育」(英語教育)はどのように扱われてきたのか、おもな内容を理解すること。

- ・日本における英語教育はどのような教科書を用いて行われてきたのか、戦前・戦中・戦後の代表的な教科書の内容を把握すること。
- ・受験英語のおもな歴史を把握すること。
- ・日本の英語教育の現場に導入されている ALT は、どのような変遷を経て来日するようになったのか、その時代背景を理解すること。
- ・小学校における英語教育はどのような歴史を経て、現在公立小学校にも導入されるようになったのか概要を理解し、その意義や問題点を自ら考えること。
- ・小学校における英語教育の歴史を理解し、中学校以降の教育機関における英語教育との連携について、自ら考えること。
- ・日本で編纂されたおもな英和・和英辞典に関する知識や、英語教師が講読してきたおもな雑誌について知り、現在入手可能なものを自分でも活用してみること。
- ・日本で英語教育を行うにあたって、これまで様々な論争が繰り広げられ、多様な提言がなされてきた。これらおもな事項(近年の例を挙げれば「平泉・渡部論争」、「英語第二公用語化論」、「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」など)の概要を把握し、自身の意見を持つこと。

参考文献

・現行版及び次期学習指導要領等に関する資料(以下のアドレスは変更の可能性があります。文部科学省のトップページも参照してください)

① 現行版学習指導要領

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356249.htm

② 次期学習指導要領

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

- ・『英語教授法のすべて』伊藤嘉一(大修館書店)
- ・『日本人は英語をどう学んできたか』江利川春雄(研究社)
- ・『日本の英語教育』山田雄一郎(岩波新書)
- ・『改訂版英語教育用語辞典』白畑知彦他(大修館書店)
- ・*Approaches and Methods in Language Teaching*. Jack C. Richards and Theodore S. Rogers. (Cambridge University Press)

評価基準

① レポートを評価する際の基準

レポートを評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・合格:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。大学生のレベルに見合ったレポートの体裁を踏まえている場合。
- ・不合格:上記の要求に対して、6割未満しか満たしていない場合。

② 試験を評価する際の基準

試験を評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・優:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、8割以上満たしている場合。
- ・良:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、7割以上8割未満である場合。
- ・可:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割以上7割未満である場合。
- ・不可:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割未満である場合。

使用テキスト

配本年度

『Intercultural Communication for English Language Learners in Japan 英語学習者のための異文化コミュニケーション』McConachy ほか著(南雲堂、2017) 2019年度～

科目概要

異文化コミュニケーション論に関する英語で書かれた論述を読んで、共時的な観点から英米文化の基本的な知識を得て、世界に生起する多様な諸文化と、諸文化間のコミュニケーションの現状と課題をつかんだ後に、それを英語で再現することを通じてその内容を体験的に検証する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。

■ 科目の学習要点事項

English for Intercultural Communication

The Concept of Culture

Language and Thought

Communication Styles

Speech Acts across Cultures

Stereotypes and Intercultural Communication

Cultural Accommodation in Communication

Study Abroad and Intercultural Adaptation

参考文献

青木保『異文化理解』(岩波新書)

原沢伊都夫『異文化理解入門』(研究社)

評価基準

■ レポート評価

問1の日本語による要旨は、逐語訳的正確さより、内容の正確な理解を問う。

問2の論述は、客観的に説得力のある論述がされていることが重要。

■ 科目終了試験評価

問1は、教科書の通りでなくても、意味と語法の観点から適切であれば相当に評価する。

問2は、客観的に説得力のある論述がされていることが重要で、教科書の主張との相違は必ずしも重要ではない。

『社会言語学への招待－社会・文化・コミュニケーション』

田中春美・田中幸子 編著(ミネルヴァ書房)

2014年度～

科目概要

英語圏における社会言語学的状況を詳しく知り、英語の理解、英語圏の文化の理解につなげる。地域によって異なる方言(地域変種)、人種・階級・性別によって異なる方言(社会方言)について学び、多様な英語が使われている状況を理解する。それぞれの言語変種がどのような場面・状況で選択され、どのように運用されているかを理解する。英語におけるポライトネスや会話のスタイル・コミュニケーションの違いを理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 英語が第一言語として話されている国、第二言語として話されている国について理解する。「言語学」という学問の下位分野である「社会言語学」がどのような分野であるかを理解する。他言語社会状態であるアメリカ、カナダ、オーストラリアといった国々においてどのような言語的状況があるのかを理解する。英語の地域方言と社会方言にどのようなものがあるかを理解する。日本語の敬語に代表されるような「ポライトネス」が英語話者においてどのように表現されているかを理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 社会言語学とは何か。ことばの多様性を理解し、言語変種の差は何が要因で生まれるかを考える。
2. 言語と社会の関わりについて考える。社会言語学の研究方法を学ぶ。「ピジン」「クレオール」という概念を理解し、実例を学ぶ。
3. 方言と標準語はどのように定義されるか、英語における方言と標準語とはどのようなものか、を学ぶ。
4. 英語の国際化により、世界に広がった様々な英語の変種について知る。第一言語として英語を使用している国、公用語として英語を使用している国、第二言語として英語を使用している国について学び、様々な国における英語の特徴を学ぶ。
5. 言語変種と社会階級の関係性を学ぶ。英語が話されている社会において、どのような社会階級が観察されるか、また階級による言語の差がどのように現れているかを知る。
6. 人種・民族と言語変種の関係性について、特にアメリカの黒人英語について学ぶ。
7. 性別による差、年齢差について学ぶ。
8. それぞれの変種が場面・状況に応じてどのように選択されるのが適切かを学ぶ。
9. 英語でのコミュニケーションにおいて重要な「呼びかけ表現」の様々なありかたについて学ぶ。
10. 日本語には敬意を表す表現として「敬語」がある。英語には「敬語」は存在しないと言われることがあるが、「ポライトネス(丁寧さ)」の表現は存在する。英語における「ポライトネス(丁寧さ)の表現」がどのようなものかを学ぶ。
11. 英語におけるコミュニケーションのありかた、文化の違いにより会話のスタイルがどのように影響を受けるかを学ぶ。
12. 会話の含意がどのように伝わるか、発話行為や婉曲語法について、また、非言語的伝達手段についても学

ぶ。

13. 言語によらないコミュニケーション、つまり「非言語伝達」について学ぶ。「周辺言語」「身振り言語」とは何かについて理解する。
14. 距離による人間関係の現れ方、文化による距離の取り方の違いについて学ぶ。異文化理解において、「非言語的伝達」のあり方を理解することが重要であることを理解する。
15. 社会言語学を学ぶことによって、英語教育の方法をどのように向上させられるかを考える。また、言語能力の到達目標をどのように設定するべきかを考える。

参考文献

- ① 『社会言語学入門 改訂版』東照二著（研究社）
- ② 『ジョンブルとアンクルサム イギリス英語とアメリカ英語』野村恵造著（研究社）
- ③ 『世界の英語と社会言語学 多様な英語でコミュニケーションする』ヤムナ・カチュルー他著（慶應義塾大学出版会）
- ④ 『概説 社会言語学』岩田祐子他著（ひつじ書房）
- ⑤ 『言語と社会』トラッドギル著（岩波新書）

評価基準

■レポート評価

課題の章について、理解して意味が通るように記述できているか。設問に適確に回答しているか。社会言語学において重要な概念を表す学術用語をきちんと理解し、適切に使用して回答しているか。以上三点を重視し、100点満点で採点する。

■科目終了試験評価

記述式の試験問題を解いてもらう。あらかじめ指定した教科書の部分をよく理解し記憶して臨んでもらいたい。各2問の出題をするので、それぞれ50%の配点で採点する。

テキストの параグラフのキーワードとして提示されている語（例えばテキスト20ページの「英語を使用する人びと」の内容をきちんと説明できるように備えてください。また、テキスト中の学術用語（例えばテキスト19ページの「地域方言」「言語地図」「等語線」、あるいはテキスト26ページの「容認発音」などの意味を理解し、論述において正しく使用できるようにしてください。テキスト全体から出題されるが、特に、テキスト19ページから82ページまで、96ページから110ページまで、113ページから140ページ、159ページから204ページをコラムを含めてよく読み理解しておいてください。

『日本人と英語 - もうひとつの英語百年史』斎藤兆史 編著(研究社)

2014 年度～

科目概要

明治以降の日本の英語教育の歴史と英語教育の是非をめぐる論争を社会的な背景を踏まえて概観し、現在そして未来の英語教育について考える。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 明治以降の日本の学校で実践されてきた英語教授法の変遷を理解する。
2. 英語教育史から学んだことを、現在そして未来の英語教育に活かすことを目指す。

■ 科目の学習要点事項

1. 明治時代の英語受容と英語教育論
2. 大正デモクラシーと音声重視の教授法受容による英語教育改革
3. 昭和時代前期の英語教科書と受験参考書
4. 昭和時代後期の英語教育立て直しと制度的変革
5. 平成時代における英語が使える日本人の育成

参考文献

- ① 『日本人は英語をどう学んできたか 英語教育の社会文化史』江利川春雄著 (研究社)
- ② 『英語教育史資料』全五巻 大村喜吉・高梨健吉・出来成訓編(東京法例出版)
- ③ 『資料日本英学史2 - 英語教育論争史』川澄哲夫編(大修館書店)
- ④ 『日本英語教育史考』出来成訓著(東京法例出版)

評価基準

■ レポート評価

外国から取り入れた主な教授法や英語教育をめぐる論争などについて自分の言葉でまとめられていること。

■ 科目終了試験評価

英語教育開始から今日に至るまでの、主な教授法、論争について、要点をまとめられており、それについて自分の考えが書かれているかを問う。

使用テキスト

配本年度

『グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法』岡秀夫編著(成美堂) 2012年度~2020年度
『新・グローバル時代の英語教育—新学習指導要領に対応した英語科教育法—』

岡秀夫編著(成美堂)

2021年度~

科目概要

■学習指導要領を踏まえ、中学校・高等学校の英語教員に必要とされる基本的な知識と実践的な指導技法を学ぶ。英語教育の現状、第二言語習得や外国語教授法、学習指導要領、実際の授業展開や活動、教材、評価等、幅広く取り上げ、実践に結び付ける。

■RT:「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」

- ・レポート作成:課題に従って教科書の該当箇所をよく読み、必要に応じて参考文献を参照しながら執筆すること。レポート返却後は、担当教員のコメントをよく読み、与えられた課題について理解を深めること。
- ・試験:試験前には、あらかじめシラバスをよく読み、教科書の要点を理解した上で試験を受けること。試験後は、試験問題と自ら書いた解答を十分に振り返り、理解不足であった点を復習すること。

■SR:「その他必要である、または期待される主体的学びの概要」及び「予習・復習に必要な時間」

- ・スクーリング:スクーリングのシラバスに記載されている授業計画に従って教科書の該当箇所をあらかじめ読み、概要を理解してから授業に出席すること(予習、スクーリング 1 コマにつき 1.5 時間程度)。スクーリング後は、教科書の該当箇所及び授業で配布されたプリント等をよく読み、要点を改めて確認すること(復習、スクーリング 1 コマにつき 1.5 時間程度)。
- ・レポート作成:課題に従って教科書の該当箇所をよく読み、必要に応じて参考文献を参照しながら執筆すること(予習、1.5 時間程度)。レポート返却後は、担当教員のコメントをよく読み、与えられた課題について理解を深めること(復習、1.5 時間程度)。

学習上の目標

① 科目の到達目標

- ・知識・理解:日本の英語教育の現状と課題、学習指導要領に掲げられている目標と内容を、より発展的に理解すること。
- ・技能:中学校・高等学校の英語教育に必要な英語力、知識、及び実践的な教育技法を、より発展的に身につけること。
- ・理解・技能:自らが英語を学習してきた過程をふり振り返り、指導法や実際に使われている教科書の研究を通して、指導の要点や効果的な教育方法を見出せるようになること。

②科目の学習要点事項

- ・学習指導要領の目標と内容を理解し、これまで自分が英語を学習してきた過程を振り返りながら学習を進める。
- ・世界における英語の位置付け、日本における英語教育の現状を理解する。
- ・外国語学習の理論的基盤として、第二言語習得や教授法について知識を深める。
- ・英語教育の実践に向けて、五つの領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと)を伸ばすための活動、学習指導案作成、教材、ICT 活用、評価規準・評価方法(現行および次期学習指導要領に対応した観

点を含む)等に関する知識を深める。

参考文献

・現行版及び次期学習指導要領(以下のアドレスは変更の可能性があります。文部科学省のトップページも参照してください)

学習指導要領

新学習指導要領(平成 29 年 3 月公示)および同解説

小学校及び中学校学習指導要領

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

『「新版」英語科教育実習ハンドブック』米山朝二著 大修館書店

『新英語科教育の展開』塩沢利雄著 英潮社

『「英語授業力」強化マニュアル』岡秀夫著 大修館書店

『外国語教育学研究のフロンティア』東京大学外国語教育学研究会編著 成美堂

『日本語が見えると英語も見える』荒木博之著 中公新書

『小学校英語と中学校英語を結ぶー英語教育における小中連携』松川禮子・大下邦幸編著 高陵社書店

評価基準

① レポートを評価する際の基準

レポートを評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・合格:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合ったレポートの体裁を踏まえている場合。
- ・不合格:上記の要求に対して、6割未満しか満たしていない場合。

② 試験を評価する際の基準

試験を評価する際、以下の観点から評価を行います。

- ・優:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、8割以上満たしている場合。
- ・良:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、7割以上8割未満である場合。
- ・可:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割以上7割未満である場合。
- ・不可:与えられた課題に対して、要点を踏まえて的確に答え、重要な項目に関して十分に考察を加えている。加えて、大学生のレベルに見合った論述の体裁を踏まえている。以上の要求に対して、6割未満である場合。

『行動志向の英語科教育の基礎と実践 教師は成長する』

JACET 教育問題研究会編(三修社)

2019 年度～

科目概要

英語科の授業を実践する上で、必要なポイントについて学ぶ(高校の授業を中心に)。具体的には、4技能の指導において以下のことを検討する。

- ・授業の準備と計画
- ・英語で授業を進める上で必要なこと
- ・言語の使用場面の検討
- ・自己表現と技能統合型のコミュニケーション活動

学習上の目標

■ 科目の到達目標

英語の良い授業とは何か、またそれに必要な技能とは何かを具体的に理解することをめざす。つまり、良い授業に必要な教師の英語力と指導知識と技能を理解し、自らそれらを身につける方法を実践できるようになることを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

- ① 授業の準備と計画を立案する上で、必要なポイントとは何か。
- ② 言語の使用場面に応じた言語活動とは何か。
- ③ 集団学習における自己表現とコミュニケーション活動を行う上で必要なポイントとは何か。
- ④ 4技能の統合をめざした授業において必要なポイントとは何か。

上記のポイントを「読む、聞く、話す、書く」のそれぞれの実践的な指導から学習する。

参考文献

- ① 『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂出版)
- ② 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂出版)
- ③ 『英語授業ハンドブック 中学編』(大修館)
- ④ 『英語授業ハンドブック 高校編』(大修館)
- ⑤ 『英語教師の成長—求められる専門性』英語教育学大系第7巻(大修館)
- ⑥ 『英語学習ポートフォリオの理論と実践 —自立した学習者をめざして』(くろしお出版)
- ⑦ 『「教師の自己評価」で英語授業は変わる—J-POSTL を活用した授業実践』(大修館)

評価基準

■ レポート評価

各ポイントにおいて基本的に必要な事項を具体的に説明してあるか。また、そのポイントを自分の指導案に適切に応用してあるか。

■ 科目終了試験評価

各ポイントにおいて基本的に必要な事項を具体的にかつ、適切に理解できているか。

科目概要

学習指導要領を踏まえ、中学校・高等学校英語科教員に求められる基礎知識と実践的指導技術を学ぶ。中学校・高等学校における英語教育、すなわち英語科教育の現状、コミュニケーション重視の英語教授法、学習指導要領、及び解説、授業計画と展開、言語・学習活動、検定教科書・補助教材、新しい評価法等、幅広く取り上げ、英語科教育の実践に結び付ける。教科書の各章の章末にある参考図書を主体的に読むことも必要である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

学習指導要領における目標、内容、指導上の留意点等を踏まえ、英語科教育に関する基礎知識・技能を身に付け、実際に想定される教室の教育条件等を考慮し、得た知識をもとに判断し、ふさわしい授業計画を実行できるための素養を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

- ・これまでの自らの英語学習の過程を振り返りながら、今日、求められる英語科教育の実践について考える。
- ・英語学習の理論的基礎として、第二言語習得や教授法について実践的視点から考え、理解を深める。
- ・4 技能をバランスよく伸ばすための言語活動、学習指導案、教材論等に関する理解を深め、自らの実践に活かすことができる。

参考文献

- ① 『中学校学習指導要領解説 外国語編』及び『解説』文部科学省
- ② 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』及び『解説』文部科学省
- ③ 『大修館 英語授業ハンドブック 高校編 DVD 付』金谷憲他編 大修館書店
- ④ 『改訂版 英語教育用語辞典』白畑知彦他著 大修館書店
- ⑤ 『総合英語 One』金谷憲他監修 アルク
- ⑥ 『新学習指導要領が実践できる! 中学校英語授業パーフェクトガイド』向後秀明著 学陽書房

評価基準

■ レポート評価

与えられた課題を正確に理解し、本科目の教科書等による学習の成果が見えるよう、レポートはわかりやすく、的確に、かつ具体的に述べられているか。自己体験のみを書いたエッセイにならないようにする。読みやすい文章にするために構成等に工夫が見られるか。誤字脱字のない正確で、丁寧な表記(日本語・英語)で記述されているか。

■ 科目終了試験評価

テキストで広く学んだことを理解した上で、得られた知識を整理して、正確に分かり易く述べているか。